

## 第 79 回 CSR-BOP ウォッチの会合

### 『青年海外協力隊フィールド調査団、パナマとケニア村落での活動報告』

宮崎大輔(活動地:パナマ共和国ベラグアス県カニャーサス郡)野菜栽培  
近藤さやか(活動地:ケニア共和国シヤヤ県) 栄養士  
小辻洋介(国際金融公社, IFC, ケニア事務所インベストメント・オフィサー )

2014年10月7日(火)18:00 - 19:30

場所:東京国際大学法人本部 4 階多目的ホール(JR高田馬場駅、戸山口から徒歩 3 分)

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4丁目23-23 (03-3362-9641)

東京国際大学法人本部への地図 <http://www.kef.ac.jp/map.html>

#### [Outline]

“Japan Overseas Cooperation Volunteers (JOCV) Field Reports from Villages in Panama and Kenya: Search for BOP Business Opportunities” by Daisuke Miyazaki on Vegetable Cultivation in Panama and Sayaka Kondo on Nutrition in Kenya, coordinated by Yosuke Kotsuji (IFC, Investment Officer in Kenya)

How does a family budget look like in a rural village in developing countries? What kinds of businesses are possible to be developed in rural villages? What are insights obtained by looking at village education, health, etc. from the perspectives of business and marketing? The skype and power point presentations will show JOCV members' awareness living in villages and interacting with people.

#### [講演内容]

世界のグローバル化、また日本企業の新興国進出の増加に伴い、新興国経済やBOP(Base of the Pyramid)市場の理解の重要性が増してきています。これらをマクロ・レベルから考察したレポートは多いのですが、村の様子や個人の消費行動など、ミクロ・レベル／現場レベルの視点からの情報はなかなか見つけることができません。「青年海外協力隊フィールド調査団」は、そういったミクロな情報発信において、新興国の村落部で地に足を付けて活動している青年海外協力隊が貢献できるのではないか、という課題意識ではじまったイニシアティブです。

途上国の村落部の家計がどうなっているのか、村でどのようなビジネスが可能なのか、村落部での教育・保健事情、ビジネスやマーケティング的な視点で村の生活を見たときにどういうインサイトが出てくるのか、等々、協力隊員の現場での活動に基づいた「気づき」を、プレゼンテーションやショート・ビデオの形式で発信致します。

今回は、パナマの宮崎大輔隊員(野菜栽培)と、ケニアの近藤さやか隊員(栄養士)の発表です。パ

ナマの山間部集落での「野菜の摂取不足による子供のビタミン類不足」に対処するための、野菜の袋栽培普及を進めている宮崎隊員。袋栽培を持続的に進めるために、ぶつかった壁とは、そしていかにそれを乗り越えたのか？近藤隊員は、ケニア西部で「栄養不足」と「栄養過多」という相反する二つの課題に取り組んでいます。これらの問題の人々の認知度不足が根本的要因と気づき、効率良く「知らせる」「広げる」取組みを進める近藤隊員。その一環で取り入れた、日本発のアイデアとは？協力隊ならではの、現場に踏み込んだ活動の様子をレポート致します。

## **[講師略歴]**

### **宮崎大輔**

H25 年度 1 次隊(2013 年 6 月～2015 年 6 月) 野菜栽培 長野県出身。信州大学大学院農学研究科の修士課程を修了後、新卒で青年海外協力隊に参加。院生時代は夏でも収穫できるイチゴの品種改良を行い、特産品化を目指す農家に栽培指導をしつつ、実家の宮崎農園産リンゴを使った「手ぬぐいリンゴジュース」をプロデュースし、六本木ヒルズ等で販売した。現在は中米パナマ共和国で、電気も水道もない村に暮らす子供の栄養状態を改善するために、農民たちに野菜の育て方、食べ方、売り方を教えている。

### **近藤さやか**

H25 年度 1 次隊(2013 年 7 月～2015 年 3 月)・栄養士。協力隊フィールド調査団 1 次隊メンバー(ケニア 2014 年)。長崎県出身。大学卒業後、全国農業協同組合連合会にて1年間勤務後、特別支援学校の栄養士・栄養教諭として6年間、給食管理と食に関する指導業務に従事。管理栄養士、栄養教諭免許所有。2014年7月より青年海外協力隊に参加。国際協力に関する知識・経験なし、語学力なし、保健所での実務経験なし、パッションだけを持ち赴任。現在シヤヤ県保健事務所を拠点に、低栄養(飢餓)と栄養過多(生活習慣病)という、相反する栄養状態の問題に取り組んでいる。

### **小辻 洋介**

2001 年東京大学法学部卒。同年、ゴールドマン・サックス投資銀行部門入社、企業の合併・買収・資金調達等のアドバイザリー業務に従事。2008 年ハーバード大学 MBA 修了。現在は IFC(世界銀行民間投資部門)ケニア事務所にて、アフリカの農業・食品企業への投融資業務に従事。